

## 主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 63

啓示録において (12)

聖なる都、新エルサレムの永遠の夫

聖書：啓 21:2, 9-10, 22:17 前半

- I. 新エルサレムは神聖なロマンスの究極的完成です。聖なる都は団体のパースンであり、この団体のパースンは夫婦、すなわち、手順を経て究極的に完成された三一の神と手順を経て究極的に完成された三部分から成る人との結婚です。これはその霊と花嫁が一となることです——啓22:17前半：
- A. 聖書の主題は宇宙的な夫婦の神聖なロマンスです。男は神ご自身であり、女は神の選ばれ贖われた民です——創 2:21-24. イザヤ 54:5. エレミヤ 2:2. 3:1, 14. 31:32. エゼキエル 16:8. 23:5. ホセア 2:7, 19. マタイ 9:15. ヨハネ 3:29. II コリント 11:2. エペソ 5:25-32. 啓 19:7。
- B. 雅歌は啓示していますが、究極的に、わたしたちは同形化されてすばらしいシュラムの女となります。シュラムの女はソロモンの複製として、キリストの配偶者としての新エルサレムの最大で、究極の型です—— 6:13. 啓 21:2, 9-10, 22:17 前半：
1. 「シュラムの女」は「ソロモン」の女性形であり、今や勝利者が神格においてではなく、命、性質、表現、機能においてキリストと同じになり、神のエコノミーを遂行することを示しています：
- a. ソロモン王が田舎男となって田舎娘に求愛し、彼女を彼の女王、すなわち彼の複製とならせたのと同じように、神はキリストの中で人と成って人に求愛し、人を神格においてではなく、命、性質、表現、機能において神と同じにし、キリストの花嫁とならせます——マタイ 9:15. 啓 19:7. 参照、詩 45:1-3, 9, 13-14。
- b. 聖書は啓示していますが、神は人と成ってわたしたちに求愛し、また今や神はわたしたちが、神との個人的で、愛情深い、ひそかな、霊的な関係を通して、神聖になることによって神に求愛し、神を表現することを欲しています——伝 1:2. 雅 1:1-8. 参照、II コリント 2:10. 出 33:11, 14. ローマ 8:4, 6. I コリント 2:15。
2. シュラムの女は、神の目に二つの陣営、二つの軍勢のようです——雅 6:13：
- a. 「二つの陣営」という語句は、ヘブル語で「マハナイム」です。
- b. ヤコブがエサウと向かい合う途上で、神の御使いが彼に会いました。そしてヤコブはその場所をマハナイムと呼びました——創 32:1-2。
- c. ヤコブは神の二つの軍勢を見た後、自分の妻たち、子供たち、所有を二つの陣営あるいは「二つの軍勢」に分けました。これは、わたしたちが勝ち得て余りがあり、強い証しを担っていることを示しています—— 7 節。
- d. それはまた神が欲しているのは「巨人」ではなく、軟弱な者、弱い者、女、子供だけであることを示しています—— II コリント 11:29. ローマ 9:16。

e. 自分自身において強い者はみな、資格がありません。勝利者とみなされる人は、弱い者であり、からだの原則において主に全く依り頼む者です——啓 3:8. I ペテロ 5:5. 申 32:30. 伝 4:9-12. ローマ 16:20。

C. キリストの婚約と結婚の生活は、召会時代、王国時代、永遠の時代を網羅します：  
1. 召会時代において、わたしたちはキリストに婚約させられています——II コリント 11:2-3。

2. 婚礼の日は、千年王国の時代となります——啓 19:7。

3. 結婚生活は、永遠にわたって新エルサレムの中にあります——21:2, 9-10。

D. その人性によれば、新エルサレムは小羊の人性の妻です（神聖な命と性質を伴う）。その神性によれば、新エルサレムは神の贖われた選民の神聖な夫です（究極的に完成された具体化であるキリストにある贖う神であり、彼の人の命と性質を伴う）。

II. わたしたちがキリストをわたしたちの永遠の夫として経験し、享受し、表現して、聖なる都となるために、わたしたちの心は堅固にされて、聖別の中で責められるところのないものになる必要があります——I テサロニケ 3:13：

A. 心は、人の内側の諸部分の集合体、人の総代表であって、人を動かす機関です。わたしたちの心は、わたしたちの魂の各部分、すなわち、思い、感情、意志（マタイ 9:4. ヘブル 4:12. 使徒 11:23. ヨハネ 14:1. 16:22）と、それに加えてわたしたちの霊の一部分、すなわち、良心（ヘブル 10:22. I ヨハネ 3:20）から構成されています。

B. わたしたちの心の神の御前での状況は、神の御前でのわたしたちの霊、魂、体の状況と、有機的で、内在的で、分離することのできない関係にあります：

1. わたしたちの心が活動しているときはじめて、霊を活用することは役に立ちます。もし人の心が無関心であるなら、霊は内側に閉じ込められており、その能力を発揮することができません——マタイ 5:3, 8. 詩 78:8. エペソ 3:16-17。

2. 魂はパースンそのものですが、心は行動におけるパースンです。心は、わたしたちの全存在の行動の機関、行動の執行者です。

3. わたしたちの物質の体の活動と行動は、わたしたちの物質の心臓に依存しています。同様に、わたしたちの日常生活、わたしたちがどのように活動し振る舞うかは、わたしたちがどのような心理上の心を持っているかにかかっています。

C. 心は、命の入り口と出口であり、命の「スイッチ」です。もし心が正しくなければ、霊の中の命は妨げられ、命の法則は自由に妨げなしに働くことができず、わたしたちの存在の各部分に到達することができません。命は大きな力を持っていますが、この大きな力はわたしたちの小さな心によって支配されます——箴 4:23. マタイ 12:33-37. 参照、エゼキエル 36:26-27：

1. 神は変わることはない方です。しかし、わたしたちの生まれながらの心は、人との関係においても主との関係においても、変わりやすいものです——参照、II テモテ 4:10. マタイ 13:3-9, 18-23。

2. 人の天然の人性の命によれば、心が確固としている人は一人もいません。なぜなら、わたしたちの心はとても容易に変わるからです。それは全く信頼に値しません——エレミヤ 17:9-10. 13:23。

3. わたしたちの心が責められるのは、それが変わりやすいからです。変わることの

ない心は、責められるところのない心です——詩 57:7. 108:1. 112:7。

4. 神の救いでは、心が新しくされることは一度限りのことです。しかしながら、わたしたちの経験では、わたしたちの心は絶えず新しくされます。なぜなら、それは変わりやすいからです——エゼキエル 36:26. II コリント 4:16。
  5. わたしたちの心は変わりやすいので、聖別する霊によって絶えず新しくされる必要があります。それによってわたしたちの心は、聖となる状況の中で、すなわち、神へと分離され、神によって占有され、神によって所有され、神で浸透される状況の中で、確立され、建て上げられることができます——テトス 3:5. ローマ 6:19, 22。
- D. 召会生活のための聖なる生活を生きることにおいて「聖別されつつある者たち」となるために、わたしたちは「聖別する方」の内なる働きと協力して、わたしたちの心を対処しなければなりません——ヘブル 2:11. 詩 139:23-24 :
1. 神は、わたしたちの心が柔らかいことを願っています：
    - a. 神はわたしたちの心を対処するとき、わたしたちの肉から石の心を取り除き、わたしたちに肉の心、すなわち柔らかい心を与えます——エゼキエル 36:26。
    - b. 心が柔らかいことが意味するのは、わたしたちの心の意志が主に対して服従的であり、従順であり、頑固でなく、反逆的でないことです——参照、出 32:9。
    - c. 柔らかい心とは、この世的な往来によってかたくなにされていない心です——マタイ 13:4。
    - d. 神はご自身の愛を用いてわたしたちを感動させることによって、わたしたちの心を柔らかくします。もし愛がわたしたちを感動させることができなければ、神はご自身の御手を用い、環境を通して、わたしたちを取り扱い、ついにはわたしたちの心が柔らかくなるようにします——II コリント 5:14. 4:16-18. ヘブル 12:6-7. 参照、エレミヤ 48:11。
  2. 神は、わたしたちの心が純粋であることを願っています：
    - a. 純粋な心とは、神を愛し神を求める心です。それは神以外に、他の愛、好み、願いを持ちません——詩 73:25. 参照、エレミヤ 32:39。
    - b. わたしたちの心は、神に対して単一であるべきです。そうすればわたしたちはただ、神に対して罪を得ることと神の臨在を失うことだけを恐れます——詩 86:11 後半。
    - c. わたしたちの目標と目的は、神ご自身であるべきです。わたしたちは他のいかなる動機も持つべきではありません——マタイ 5:8。
    - d. わたしたちは、「純粋な心で主を呼び求める人たちと共に」キリストを追い求めなければなりません——II テモテ 2:22. I テモテ 1:5. 詩 73:1。
  3. 神は、わたしたちの心が愛する心であることを願っています：
    - a. 愛する心とは、感情が神を愛し、神を求め、神に渴き、神を慕い求め、神と個人的で、愛情に満ちた、ひそかで、霊的な関係を持っている心です——42:1-2. 雅 1:1-4。
    - b. わたしたちは心を何度も何度も主に向け、心を絶えず新しくしてもらわなければなりません。それは、わたしたちが主に対して新しく新鮮な愛を持つため

す——Ⅱコリント 3:16. 英文詩歌、546番と547番。

- c. 霊的な経験はすべて、心の中の愛から始まります。もしわたしたちが主を愛さなければ、どんな霊的な経験も持つことはできません——参照、エペソ 6:24。
  - d. 主に対するわたしたちの愛は、わたしたちを資格づけ、成就し、装備して、主の權威をもって主のために語らせます。もしわたしたちが極みに至るまで主を愛するなら、わたしたちは主で満たされ、主をあふれ流すでしょう——ヨハネ 21:15-17. マタイ 26:6-13. 28:18-20。
4. 神は、わたしたちの心が平安であることを願っています：
- a. 平安である心とは、良心にとがめがなく、罪定めがなく、責められるところのない心です——使徒 24:16. Ⅰヨハネ 3:19-21. ヘブル 10:22。
  - b. もしわたしたちが神の臨在の光の中で自分の罪を告白するなら、わたしたちは彼の赦しと清めを受けます。それによってわたしたちは、正しい良心をもって、神との絶え間のない交わりを享受します——Ⅰヨハネ 1:7, 9. Ⅰテモテ 1:5。
  - c. 祈りの中で神との交わりを実行した結果は、わたしたちが神の平安を享受することです。神の平安とは實際上、平安としての神が、キリストの中でわたしたちの心と思考のために歩哨に立ち、わたしたちを平静にし安らかに保つことです——ピリピ 4:6-7, Ⅰテサロニケ 5:23, Ⅱテサロニケ 3:16。
  - d. わたしたちは、キリストの平安にわたしたちの心を裁定していただき、互いに赦し合い、一人の新しい人を着る必要があります——コロサイ 3:13-15。
- E. わたしたちの心が、聖別する霊の絶え間のない更新によって、確立され、聖別の中で責められるところのないものになりつつあるとき、わたしたちは神聖な命の新しさを持つ新エルサレムになりつつあり、また神聖な性質の聖を持つ聖なる都になりつつあります——啓 21:2. Ⅰヨハネ 5:11-12. Ⅱペテロ 1:4。